



「小松さんの和菓子教室」

第41号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 28 年 10 月 31 日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎	0439-67-3711
豊岡光生園	〒299-1742	千葉県富津市豊岡 3535-1	☎	0439-68-1711
相談支援センター天羽				0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎	0470-36-3211
鴨川ひかり学園	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎	04-7099-3311
ひなたホームズ				
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎	0439-70-6551

風と語ろう

『伝えるということ』

私は数年前まで、会議やミーティングなど職員が集まる機会には、あれも伝えなければ、これも伝えなければと、伝達事項や言いたいことで頭の中が溢れていた。

しかし、いざ職員たちを前に話を始めると、相槌を打ってくれる職員がいる傍らで、じっとこちらを見ているけれど無表情、無反応である職員、耳を傾けているのは感じ取れるが下を向いてしまっている職員などが目に入り、いまいち「よし、伝わっている」という実感は得ていなかった。

私は人前で話すことが元来苦手で、伝わったという実感が無いのは、自信のなさの表れかも知れないと悩んでいた。今思うと、まとめて一気に伝えることばかり考えていて、なんて横着な職員だったのだろうと情けなくなる。

伝えたいことを相手に伝えるには、差し向かいで真剣に話すことが何より大切なはず。当時はそのことに意識が向かわず、会議やミーティングの場を当てにしすぎて、本気になって「伝える」という基本的行為をしていなかった。



おそらくは事業所内を歩き回って十分に職員とのコミュニケーションを図ることもできていなかっただろう。

ある時から私は、「伝える」ということに今まで以上に向き合った。同時に、職員同士が「伝え合う」ということを意識して行っているか確認しなければと思った。

* * *

職員一人ひとりと話をしていると、日々利用者支援にあたっている中で「気づき」がたくさんあることがわかる。

しかし、その「気づき」を他の職員と共有できていない。月日が経ってから「知らなかった。初めて聞いた」ということが意外に多いのだ。

利用者支援での「気づき」は、「こうしたい。こんなことに困っている」など、利用者の欲求や要望に応えるための貴重な手がかりだが、この「気づき」をどうやら自分の中だけに溜め込んでしまっているようだ。

支援現場においては、この「気づき」こそ、職員から職員へ、出来るだけ早いタイミングで伝え合うことが重要である。

そして、職員同士の伝え合いは、単なる伝達事項のやり取りだけではなく、感じたことや合点やひらめきの分かち合いでもある。

分かち合いは、実感や着想や思いが共鳴して増幅していくものである。だからこそ「気づき」は職員から職員へ直接伝わってほしい。

今、こんな話を利用者支援にあたっている職員たちに日々伝え続けている。

先日ある職員と話した。会議などを行わなくても、日頃から職員同士の伝え合い、分かち合いが十分に行われ、課題などが自ずと意識される、そんな状態を目指したい。会議では、単なる伝達ではなく、課題解決への知恵を出し合いたいと語っていた。

私は、少しずつではあるが、「思い」が伝わっている手ごたえを感じることができた。

多田 浩司





『あなたの「オハヨウ」が聞きたくて』

「おはようござ……」

朝のあいさつもままならないまま、私の手首をギョツと力強く握りしめ、王子さまのように颯爽と私を連れ去っていく長身の男性。

「この王子さまが福山雅治さんだったら、どんなに幸せなんでしょう♥」と妄想しながら顔を見上げると……。

そうです、やっぱり千原さんなのです！

お休みした利用者さんや職員を教えるために、千原さんは嬉々として私の手を引き、その方の写真が掲示してある場所に私を強制連行するのが日課になっています。

これが千原さんと私の毎朝の光景なのですが、私はこの時間をとても大切にしています。

私が体調を崩して一ヶ月お休みを頂いた時、（川が流れるジェスチャーをしながら）「カワッ、ヤスミ」と心配して（？）一ヶ月間言い続けてくれたようで、それを知った時、涙が出るほど嬉しかったことを覚えています。

お休みした利用者さんや職員を周囲に伝えることは、千原さんにとってコミュニケーションの型のひとつなのでしょうが、そのやりとりには温かいものが通っていて、千原さんから優しさをプシ

セントしてもらっている感覚に捉われることがあります。

「オハヨウ」と千原さんに言っただけで、これまで何度挑戦したことでしょうか。今朝も「〇〇、ヤスミッ！」と私に教えた後、また別の姫（職員）をさらに旅立っていく千原さん。

私の「おはよう」はむなく消え、勇ましいその背中をただ見送るだけでした。

拝啓 千原伸介様

あなたの「オハヨウ」

が聞きたいです

川口恵理子



『新参者 奮闘記』

「春男さん、ありがとう！」

「ウィー！」

満足そうな笑みと共に、元気な返事を返してくれる春男さん。こんなやり取りが太陽のしずくではよく見られます。春男さんは、おしごともお手伝いもよくやってくれる働き者なんです。

まだ太陽のしずくに来て間もない私。そんな私と春男さんとの親睦を深めるため、何かお願い事をしてみようと、私のお弁当箱の片づけを頼んでみる……。

にこっと素敵な笑顔を浮かべて、自分のお弁当箱だけを持ち、静かに席を離れていく春男さん。

『ダメか……』

断られる覚悟はしていたものの、少し落ち込む私。

こんなやり取りが何日か続いた後、ふと、あることに気付きました。私が外で段ボールの片付けをしている時、何かを感じる……。

それは春男さんのアツイ視線。

『もしかして手伝ってくれるの？』

そんな期待を込めて、恐る恐る聞いてみる。

「これ、一緒にやってくれますか？」

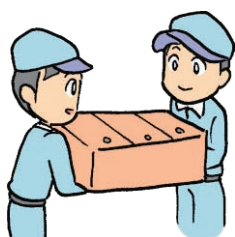
「ウィー！」

やっと気づいたかというように笑顔を浮かべながら、手際よく段ボールを畳んでくれる春男さん。『俺がやりたいのはこういうことー！』って、ずっと知らせてくれていたんですね。

「ありがとう春男さん♥」

「ウィー！」

今日もおしごとを求めて、玄関で熱い視線を送る春男さんなのです。



お富

豊岡光生園

園だより

『拍手喝采』

「ねえ、ドライブ行く?」

いつもと同じように声をかけて外出の準備。

でも、この日はいつもとはちょっと違うドライブだったのです。

実は、まだ納車間もない大きな車を運転しなければならなかったからです。

おそらく私が今まで運転した中で一番大きな車。しかも雨。ぶつけでもしたら大変だ。

不安な職員の気持ちを知ってか知らずか、足取り軽く車に乗り込んだ利用者数名とドライブスタート。

始めはドキドキしましたが、走り出せば順調、順調。

バックミラーに映る利用者の笑顔にほっと胸をなでおろした帰路、私はある事を思い出したのです。園に近づくとつね、また胸がドキドキし始めました。

園に到着し、駐車場まであと少しのところドキドキは最高潮になりました。

目の前には門扉があり、右側を園舎の壁、左側をコンクリートの土手に挟まれています。



ここを通らなければ……



擦るかもしれないという思いが、門柱の間をより一層狭く感じさせます。

でも、ここを通らなければ駐車は出来ません。

手に汗を握り、緊張しながら少しずつアクセルを踏み、左右のミラーを何度も何度も確認し、やっとの思いで車が門柱を通り抜けました。

私が（やった。）と思うよりも早く

「あんだ凄い! あんだ偉い!」

と、手をぱちぱち叩きながら立ち上がり、後部座席から運転席の私の傍まで小川さんが来てくれたのです。

もしかしたら、私と一緒に小川さんも緊張していたのかもしれない。

「緊張させて、ごめんね」

と申し訳ない気持ちでしたが、小川さんはその後も満面の笑顔で何度も手を叩き

「凄い! 偉い!」

と褒めてくれました。

小川さんとはこれまで何度も一緒にドライブに出かけましたが、どうも気持ちがすれ違ってしまい、出先で車から降りなかったり、怒り出して放り投げた靴を暗くなるまで探したり、色々な思い出があったのです。

だから、一緒に緊張し、心配してくれた小川さんの掛けてくれた言葉と、私の気持ちがぴったりであったことがうれしくて、この日の出来事がひととき胸に残ったのです。

「小川さんありがとう。これからも頑張るね」

佐藤輝子



『地域で輝く大切さ』

「オーシャンパークは犬の散歩をするのにいい場所なんだけど、雑草が凄くて……」

このような街の人の何気ない声からも、利用者さんが地域で輝けることは生まれます。鴨川ひかり学園が行う、地域貢献への本格的な取り組みのきっかけとなったのは、「道の駅オーシャンパーク」での活動です。その内容の一つである「除草作業」も、そんな一言がきっかけでした。

除草と言っても、利用者さんたちが取り組むところは草刈り機などではできない、「手作業」で行なわなければならぬ場所です。そのため、根っこから抜こうとしても葉っぱだけ取れてしまったり、うまく草がつかめなかったりと、初めは利用者さんたちも戸惑いながらのスタートでした。もちろん、活動の中で進められる範囲は、ほんの少しずつ。それでも続けていくうちに、状況に変化がみられてきました。

石畳のタイルから伸びる小さな草でも、根っこから綺麗に取れるようになった神作さんは、今では手作業だけでなく、「草取り鎌」も使いこなせるようになりました。



みんなが抜いた草を、学園の作業で作った「黄色い缶バケツ」に入れるのは、滝口さんです。「これなら俺もやれるぞ」と彼が自分で見つけた仕事です。そして、缶バケツに集まった草をゴミ捨て場まで運ぶ飯塚さん。初めはふらふらと危ない足取りで一輪車を操作していましたが、今ではすっかり上手になりました。このような利用者さん同士の「連携プレー」を見ることができるよう、ここでの醍醐味の一つです。

地域の方々から「苦労さんね」「綺麗になって助かるよ」などと、声をかけていただくことがあります。このことは利用者さんたちにとって、「職員ではない人が自分たちのことを評価してくれる」と感じさせてくれる瞬間です。しかも学園内だけにとどまらず、外に出て行ったからこそ味わえる「嬉しさ」だと思います。

出会った人に、「鴨川ひかり学園」と伝えても「どこにあるの?」「どんな人がいるの?」と質問されることはまだまだあります。ですが、このような活動を通して、それが少しずつ変わってきていると実感できるようになりました。これからも地域にどんどん出て行き、利用者さんたちが輝ける場面に出会っていききたいと思います。



(根本)

『傑作! 鴨川ひかり案山子』

毎年恒例の「みんなみの里案山子コンクール」に今年も出品し、「オーシャンパーク店長賞」に輝きました。



『にやり・ほっとセレクション』

防災訓練終了後、避難場所の駐車場から室内に戻る際、玄関で立ち止まっていた小倉さんに対し、順一さんが「ボン」と背中を軽く叩いて横を通って行きました。実は、避難開始時も玄関で立ち止まっていた小倉さんの様子を見ていたのです。(彼自身も防災訓練が嫌いで、警報ブザーに驚きながら、やっとのことで避難していました)それは小倉さんに向けた「大丈夫だよ」との、彼なりのエールだったかもしれません。



学園新聞

「一緒にやろうよ」

ダンスの大好きな孝将さんは、学園祭のダンス練習の時、両手に赤いポンポンを手にすると思いで席から離れて、皆さんの大好きなAKBの「フォーチュンクッキー」の曲に乗って踊り始めました。

するとどうしたのか、ふらふらと動き始めたのです。見ていると利用者さんのそばに寄って元気にポンポンを振って踊りに誘っているのです。同じ目線になって優しく誘っているのです。

その姿を見てとても心が温まりました。とってもいい感じだったので、すぐに写真を撮りました。自然と人との関わり方を上手にしていた孝将さんに、教えられた場面でもありました。

(鹿子)



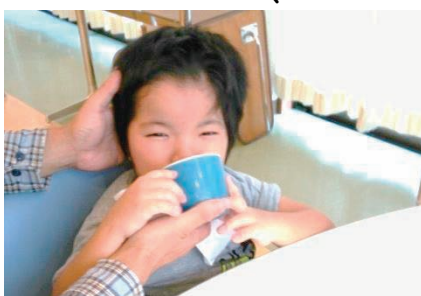
車椅子の方を誘う孝将さん

「ジュース」

あやとくんは、水やお茶などの味気ない飲み物が嫌いだ。甘い飲み物は好き。

ある時、おやつの時間に甘いカフェオレが出た。一口飲むと目の色を変えて、自らコップを持ってゴクゴクとカフェオレを飲み干してしまった。

すぐにお替わりを欲しがったが、もうカフェオレが空だったので、代わりにお茶をいれてあげた。すると最初はカフェオレだと思っ



あやとくんは喜んで飲んでくれたけど、途中で飲んで

飲んでいるものの正体に気付き、口から渾のように出してしまうことがあった。

あやとくんは、言葉

を話すことができない。身振り手振り、表情や声の調子で意思を伝えようとする。



そんな彼にもひとつだけ話せる言葉がある。その言葉こそ「ジュース」だ。



「ジュースって言うてみて」と聞くと、「ジュース」と嬉しそうに伝えてくれる。ジュースが好きなあやとくんならではの思う。

「ジュース」と言う言葉は以前から家庭では言う事があったようだけど、園では利用を始めてすぐの頃には見られなかった。言うようになったのはつい最近のことだ。言葉を話せないと思っていたから、話せるのはすごい事だと思う。

まだ、一言しか話せないけれど、何時かは「ジュース」以外の言葉も話せるようになってくれると嬉しいな！

今日も「ジュース、ジュース」と言う楽しそうな声が聞こえてくる。



(大木)

光陽

『まだまだまだお達者！ 運動会』

リオのオリンピックに触発されたのか、職員から運動会をやろうと声が上がリ、数十年ぶりに運動会を開催することになりました。

選手入場はバルーンアートの入場門から。皆が抱いた一抹の不安をよそに、最年長のやいさん、ハルさんによる選手宣誓に、期待は大きく高まっていきました。

「さあ、頑張るよ」「私に出来るかしら」

まずはラジオ体操です。代表の高島さんは、ラジオ体操をすべて覚えていて、伴奏に合わせて皆さんにレクチャーしています。

身体も柔らかく、「すごい。完璧！」と称賛の声。

さあ車椅子徒競走スタート。いつもはゆるりマイペースなのに驚きの速さで走り抜けた和江さん。惜しくも職員の

青木さんに僅差で敗れた。

パン喰い競争は、数日前から闘志を燃やしていた佐藤さんが一等賞に輝いた。

職員対抗競技では、飴をくわえ粉吹く顔に大きな声援と笑い声。



全員参加の背負い籠玉

入れ。我先に投げる、ぶつける、押し込める熱中ぶり。普段はおしとやかな安田さんって、こんなに熱い人だったのかと新たな発見に感動。

玉の数を「ひとつつ、ふたつ」と大合唱。勝ったチームから「やった、勝った」の大歓声。

もうできないと思っていた運動会ですが、利用者の皆さんの潜在能力や意外な性格の一面を垣間見ることができました。

数日後、昔の運動会はどうだったのか、数名の方に聞いて見ました。

かけっこは定番で「私は足が遅くてビリだった。私はいつも一等賞だった」と想い出は様々。ムカデ競争、綱引き、玉入れは今も昔も変わりません。

お結び、海苔巻、お寿司弁当。

「酢の御飯が一番の楽しみだったのよ」と教えてくれました。

来年は白組連覇か、赤組リベンジか、乞うご期待。

小滝・牧野



『懐かしいな〜あ』

残暑が続くある日、居室から外の様子を眺めているハルさんを見かけました。視線の先には、コンバインで稲刈りをしている風景でした。

普段からおしゃべり大好きなハルさんですが、この日はいつもと少し違っていました。

「昔はね、稲を鎌で刈って、ワラで束ねて干したんだよ」と身振り手振りを交えて熱心に教えてくれました。

若かりし頃は稲作以外にもストックなどの花栽培や野菜作りをしていたそうです。

手拭いを姉さんかぶりして、時々腰に手を当てる伸びをしながら、稲刈りをしている若かりし頃のハルさんの姿を想像しました。

そう言えば、時々外をじっと見つめている姿を思い出しました。隣の田んぼを見ては昔を懐かしんでいたのだなと気付かされました。

これからもハルさんが歩んできた人生のひとつコマを探し出し、新たな一面が見つけれられるように接していければと思います。

鈴木康代



COCO de COCO



ひと夏の経験・歩け歩け

この夏、富津市主催の歩け歩け大会に参加してきました。富津公園から海岸線沿いを五キロ、奈々さんと佐藤さん、澤本さんと歩きました。参加者にはスйка食べ放題ということもあり、みなさん、その日の朝は大張り切りでした。

富津公園では、子どもからお年寄りまで地域の方が二〇〇人ほど集まっています。人数の多さに、奈々さんたちは少しひるんだように見えたが、すぐに元気を取り戻し、動きだした人波の中を歩き始めました。途中の休憩所で婦人会の人たちが、お茶や漬物を配っていました。



「しっかりと水分摂ってくださいね」と、お茶を手渡された奈々さんは「ありがとう」と言っと、一気に飲み干しました。それを見た婦人会の人は、笑顔で、「もう一杯どうですか?」と勧めてくれ、おまけに胡瓜の漬物も手渡してくれました。

「風強いけど頑張ってるね」

「頑張ります」

胡瓜がおいしかったようで、奈々さんはもう一本いただいていた。風が汗ばんだシャツを膨らませ、

波は幾筋も白くただけです。

「海綺麗だね」と言いながら後ろを振り返って、佐藤さんや沢本さんのことも気にかけてくれる奈々さん。けれども、段々と疲れを見せ始め、速度が落ちてき



ました。心配して声をかけると、「大丈夫だよ」と白い歯をみせて、再び歩調に力が入りました。ゴール地点でスйкаを食べている他の参加者の姿が見えてくると、また元気が出てきて、「スйка食べたいね」と声が弾みます。ほどなくゴール。真っ先にスйкаのところへ直行し、「スйка美味しいね」と両手でしっかりとつかんで食べていました。帰りの車内で「まだ行きたいね」と底抜けに明るく話していた奈々さんでした。(川名)



のどかの女性たち・山車を曳く

九月三、四日と湊地区の祭礼があり、その前日に吉野さんと近所の集会所へ「祝儀を持って行きました」。

「会計さんいらっしゃいますか?」と、「ご祝儀をお渡ししていると、奥から二年配のおじさんが、「あんた開発さんの隣の人?」と吉野さんに笑顔で話しかけてきました。

「あ、はい」と彼女は緊張した顔で答えます。

「あーそ! じゃあさ、明日、山車曳きにおいてよ、引っ張ったことある?」と、

おじさんは聞いてきます。

吉野さんは即答しました。

「ないです」

「じゃあおいで」。

彼女とおじさんは二人で楽し

そうに会話をしています。私の心は、(え、いやー、明日はのどか一人勤務だし、無理っしょ!)でも、おじさんに「いいんですか?」と遠慮が



に、笑みをたたえて聞いてしまいました。

「ダメかい?」と重ねて言ってくれるので、「いいえ、ありがとうございます」と答えました。

のどかに戻りながら、「山車曳いたことないの?」と吉野さんに聞くと、「山車曳くって?」の返事。(え、知らないで曳いたことないって答えたのか、マジかあー)

のどかであらためて、「山車曳きやりたい?」と聞くと、成江さんも沢本さんも、もちろん吉野さんも、「あたし、やりたい!」。

「じゃあ祭りを思いっきり楽しもう!」

「おー」裕子さんも腕を上げエイエイオー!

祭り当日、のどかの女性たちは駅前通りで山車や神輿を見て回り、的屋でお好み焼きを買ったり、ダーツゲームをしたりし、夕方には、浴衣に着替え、山車を引っ張りに行きました。

誘ってくれたおじさんに、浴衣姿で挨拶すると、ちよつとびっくりした表情をされましたが、すぐに笑顔で、「おー♪来たね。うん、行ってきな」と威勢よく言ってくれました。近くにいた人が、「一緒に行きましょう」と山車まで行って、どうすれば良いか、説明をしてくれました。

引っ張るのは大変でしたが楽しいお祭りができ、近所の方々には本当に感謝です。(三へ)

編集後記

歩け歩け終了時は、「もう行かない!」と言っていた沢本さんでしたが、折に触れ聞いてみると、最近では、また歩いてもいいよと言っふうに変化しているそうです。食欲の秋。

♪ 芒の子 一、二の三人 ♪ (広報委員)

